

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	<small>びんそうせん</small> 禅僧線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	海陽町(旧海南町)																	
事業概要	【目的】 ・本路線は、海部郡海陽町神野の国道193号から分岐した林道荒谷線と神野岡本線の接続部分を起点とし、海陽町大比の林道大木屋小石川線へ連絡する森林基幹林道である。 ・当区域は、海部川上流の急峻な地形に広大な森林を有し、また、禅僧スギとして有名なスギの古木が密集し非常に資源の豊富な区域であるとともに、海部川下流域に位置する集落等の重要な水源区域でもある。このことから当区域の広大な森林資源の合理的な林業経営に資するための重要な基盤とし整備することにより、森林整備の促進による森林の持つ公益的機能の維持・増進と、中山間地域の雇用増進を図ることを目的とする。 ・災害時における県及び町道の不通時には大比、平井集落の迂回路等としての役割を担う。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 20%;">1,052ha</td> <td style="width: 50%;">[人工林面積:982ha (93%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>93戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>12,000m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 1,006m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,240,000千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 458,373千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成16年度～平成31年度</td> <td>(16年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,052ha	[人工林面積:982ha (93%)]	受益戸数(森林所有者数)	93戸		幅員	3.5～4.0		計画延長	12,000m	(うち平成25年度末の供用予定延長 1,006m)	総事業費	3,240,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 458,373千円)	事業予定期間	平成16年度～平成31年度
利用区域面積	1,052ha	[人工林面積:982ha (93%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	93戸																			
幅員	3.5～4.0																			
計画延長	12,000m	(うち平成25年度末の供用予定延長 1,006m)																		
総事業費	3,240,000千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 458,373千円)																		
事業予定期間	平成16年度～平成31年度	(16年間)																		
事業評価	【事業の進捗状況】 平成25年度末までに1,034mを開設供用の予定である。当区域は、海部川の侵食に従う東西方向の主脈、それに直交する形の支脈など起伏の激しい地形条件と大比地区集落の取水区域で重要な水源地であるため濁り防止の対策により開設事業費の増となった。また、起点側については、境界問題及び残土処理場の確保が難しかったため進捗が上がっていない。 <div style="text-align: right;">[進捗率:8.4%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当該路線区域は、供用部分において次世代林業プロジェクトの推進に資するため、平成21年度から平成24年度までに延べ227haの森林整備を実施している。																			
事業評価項目	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 こうした中、当路線周辺には当管内では有名な禅増杉をはじめ、成熟した森林資源を有しており、高性能林業機械を使用した積極的な森林施業が計画されている。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 全体計画期間の延伸が必要で、現在、林野庁森林整備部と変更協議中																			
事業評価項目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区間を利用し平成24年度までに、延べ507haの森林整備を実施している。また、大比地区飲料水施設のメンテナンスが軽減されている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.89 (2.19) (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 適正な森林施業と管理をおこなう上で重要となる当林道に対する期待は大きく、また、緊急時の迂回路等としての機能を有する側面を兼ね備えるため、海陽町、地元住民、森林所有者等は早期完成を強く望んでいる。																			
事業評価項目	【事業の実施方針】 計画を見直すとともに工事期間の延伸を行い継続して事業を実施する。																			